

名古屋港管理組合議会 令和5年3月  
本会議質疑・一般質問概要



令和5年3月定例会名古屋港管理組合議会が開かれ、3月22日（水）に質疑及び一般質問が行われました。質問・答弁の概要は次のとおりです。

○ 江上博之議員（市・共産）

金城ふ頭の物流と観光施設との交通対策・連携について

ア 完成自動車等の輸送と国際展示場やレゴランド利用者は別の通りを利用するように調整されていると聞いているが、使い方はどう話し合われているのか。また、物流は、主にどのルートで輸送が行われているのか。または、これからの利用が考えられているのか。

答弁 一般道については、汐止町交差点において物流と交流を分離しており、物流車両は最短距離で金城ふ頭に向かう梅ノ木線へ、交流の車両は庄内川沿いへ迂回する潮風線へ誘導し、高速道路については、名古屋市が名港中央インターチェンジから、交流の車両が市営の金城ふ頭駐車場へ直接入庫するよう誘導している。

そのほか、名古屋市による必要な箇所への案内看板の設置など、物流と交流のルートの分離に本組合も協力して取り組んでいる。

イ 名古屋港港湾計画において金城ふ頭では完成車を取り扱う埠頭用地の拡張が計画されており、名古屋市の国際展示場でも現時点以上の展示面積の拡張計画が進められている中、どのような交通問題が課題として挙がってくると考えているのか。

答弁 交流機能については、名古屋市で進められており、国際展示場新第1展示館等の開業に伴い、案内看板の増設や一般車両の金城ふ頭駐車場への集約化など様々な交通対策を実施してきた。令和4年10月以降の交通状況調査から、イベント時に名港中央インターチェンジ周辺で混雑が見られたことから、今後は交通円滑化に向け、現地調査も含めた検討調査を令和5年度に予定しており、本組合も協力していく。

ウ 名古屋港の魅力の一つとして、自動車等の輸送風景を見せる観覧など物流とものづくりを結びつける検討はしないのか。

答弁 金城ふ頭は重要な物流拠点でもあることから、物流機能に支障を来すことなく、

交流機能が展開されることが重要と考え、物流と交流を分離しているところであり、今後も交流拠点開発が港湾関係者の理解のもとで展開されるよう、引き続き、取り組んでいく。

○ 再質問

名古屋港はものづくりの技術が詰まっており、国際展示場のものづくりを展示する施設と共有できる部分があるのではないかと思うが、これからのロマンあふれる名古屋港を展望する点からも、物流を見学できる仕組み、物流機能と交流機能が共存できる仕組みを検討したらどうか。

答弁 金城ふ頭は、完成自動車などを取り扱う重要な物流拠点であるとともに、名古屋市モノづくり文化交流拠点にも位置付けられていることから、物流機能に支障を来すことなく、交流機能が展開されることが重要である。

本組合としては、港湾関係者の理解のもと、金城ふ頭の発展に努めていく。

○ 近藤裕人議員（県・自民）

(1) 外航クルーズ船の受入体制について

ア 令和5年3月から外航クルーズ船の受入れが再開された中、専用のクルーズターミナルを持たない名古屋港において、これまでコロナ対策を含めて、どのような受入体制で臨んできたのか。

答弁 感染拡大予防マニュアルを外航クルーズ船に対応したものに改訂し、協議会の構成員に名古屋検疫所を追加するなど、受入体制を整えてきた。また、岸壁上に税関検査などに利用する仮設テントの設置やSOLASに対応したフェンス等の警備なども手配し、和太鼓などによる歓迎行事で乗船客を出迎えるとともに、ツアーバスに対応したスペースも確保している。

さらに、受入れ環境をより充実させるため、3号岸壁等の改良を進め、今年度は、ポートビル及びポートハウスのトイレ設備や自動ドアの非接触化等に取り組み、利便性を高めている。

イ クルーズターミナル建設には莫大な費用が必要であることから、建設するとなれば、費用対効果の検証など慎重な検討が必要であると思うが、専用のクルーズターミナルの必要性について、どのように考えているのか、今後の取組について聞きたい。

答弁 外航クルーズ船受入の際には、岸壁上の既存空間を利用して対応しており、金城ふ頭着岸時には物流事業者との事前調整を行い、ガーデンふ頭着岸時には乗船受付手続等で既存施設を活用している。

クルーズターミナルの新設には多大な費用が必要であることから、愛知県、名

古屋市が参画する名古屋港外航クルーズ船誘致促進会議と連携を図るとともに、港湾計画上、金城ふ頭東側に大型クルーズ船にも対応した岸壁を位置づけていることを踏まえ、今後の需要動向も注視しながら、慎重に検討を進めていく。

ウ 名古屋港は専用クルーズターミナルを持たないため、大型クルーズ船の受入れには多大な時間と費用がかかるなど、外航クルーズ船誘致に不利な状況が続くと思うが、観光施設のPR以外に名古屋港をどのようにアピールしていくつもりか。

答弁 外航クルーズ船においても、カーボンニュートラルに向けた環境対策が求められる中、船舶燃料としてLNG燃料の利用が高まっており、名古屋港ではLNG燃料の補給体制が整っていることなど、環境面でもアピールしていく。

また、令和5年4月1日より名港中央大橋の下を航行する船舶の高さ制限が緩和され、今まで以上にガーデンふ頭に着岸できるようになることから、市街地へのアクセスも良くなるため、観光やショッピングにも最適であることを積極的にアピールしていく。

## (2) ガーデンふ頭再開発について

ガーデンふ頭は、クルーズ船をはじめ港を行き交う貨物船や自動車専用船などの船舶が眺められるなど、港の景観や情緒を感じられる場所であるが、名古屋港は貿易港のイメージが強く、魅力的な場所とは言い難いという現状だと思うが、今後、魅力あるまちづくりに向けて、ガーデンふ頭再開発をどのように進めていくのか、聞きたい。

答弁 ガーデンふ頭では、平成29年度に策定したガーデンふ頭再開発基本計画において、さらなるにぎわいや新たな魅力の創出に向けて再開発に取り組んでいる。来年度は、計画立案段階から開発主体の誘致までを民間事業者と協働で進めていくことにより、開発事業者の進出につなげていきたいと考えており、5月頃に募集要項の公表をし、8月頃に協働事業者の決定を予定している。

## ○ 再質問

(1) 今回の名港中央大橋の高さ制限緩和により、外航クルーズ船に対し、具体的にどれくらいの効果が期待できるのか。

答弁 コロナ禍において全てキャンセルとなったが、規制緩和前の令和3年、4年为例にすると、令和3年は9隻中3隻、4年は6隻中5隻が金城ふ頭からガーデンふ頭にシフトすることができるようになる。制限緩和を踏まえ、より多くの外航クルーズ船が名古屋港に入港してもらえるよう、積極的にアピールしていく。

(2) 閉館する名古屋港船員会館はガーデンふ頭再開発の対象エリアに近接しており、今後の魅力あるまちづくりを進めるには大変有効な土地だと思うが、跡地活用についてどの

ように取り組んでいくのか。

答弁 名古屋港船員会館は、来年度末までに閉館を予定しており、来年度は建物撤去に向けた調査を行い、その後、更地とすることを考えている。跡地活用については、港湾関係者などの意見を幅広く聞きながら、港の発展に資するよう、検討を進めていく。

○ 岡本善博議員（市・自民）

中川運河再生に向けた取組について

ア 中川運河再生計画は平成24年度に策定され、都心部のにぎわいゾーンをはじめとして再生に向けた取組が進められる中、今年度で策定後10年の節目を迎えたが、これまでの10年間を総括して、その評価についてどのように捉えているか。

答弁 本組合は策定以降、様々な取組を実施しており、にぎわいの創出では、視点場の整備や名古屋市と連携した水上交通の運航支援を行い、良好な水環境の創出では、松重ポンプ所の改修や東支線の底層改善を進め、来年度完了する予定である。さらに、防災機能の強化では、中川口通船門の地震・津波対策や老朽化した護岸の改修を進めてきた。また、来年度の整備完了を予定している堀止緑地については、アンケート調査において、認知度が向上していることを確認している。

これまでの10年間で、港湾物流の場であった中川運河は、親水性と安全性が向上し、潤いや憩い、にぎわいをもたらす運河への再生に向かって進んでいる取組がある一方で、沿岸用地へのにぎわい施設の誘導など、さらに注力していく必要がある取組もあると認識している。

イ 名古屋駅周辺では、リニア中央新幹線の開業に向けたまちづくりが名古屋市において進められており、今まで以上に多くの方々が愛知・名古屋を訪れるようになることが期待される中、それらの情勢を踏まえ、名古屋駅地区に隣接するにぎわいゾーンの再生をさらに進めていくべきと考えるが、今後、どのような取組を進めていくのか。

答弁 堀止緑地と広見憩いの杜を結ぶプロムナードについては、来年度に事業着手を予定しており、リニア中央新幹線開業を見据え、整備を進めていく。また、にぎわい施設の誘導をさらに推進していくため、公募要件の緩和など、沿岸用地に進出しやすい環境の整備に向けた取組を進めていく。さらに、堀止緑地のにぎわい創出や水面の活用については、名古屋市の堀止開発に合わせてPRに努めていく。

こうした取組については、来年度更新を予定している中川運河再生計画に反映するよう、名古屋市と検討を進めていく。本組合としては、広大な水辺空間であ

る中川運河は、潤いや憩い、にぎわいのある運河へと再生することで、名古屋港、  
名古屋市の魅力をさらに高める貴重な財産としていきたいと考えており、今後も、  
名古屋市と連携して、しっかりと取り組んでいく。